

概要

- 滋賀県ではリンドウ栽培を中山間地対策や耕作放棄地の解消対策に有効な品目として推進している。
- リンドウは盆や彼岸向けの花材として既に関西市場へ出荷していたが、需要があるものの面積拡大が進まなかった。（R2年：面積：13a、11人）
- 定植した株の栽培年数や生育に応じた栽培管理を徹底したことで、収量・品質が向上し、需要期に安定して市場出荷できる産地へと拡大した。
- その結果、本県にとって有力な中山間地向け品目に位置付けられた。

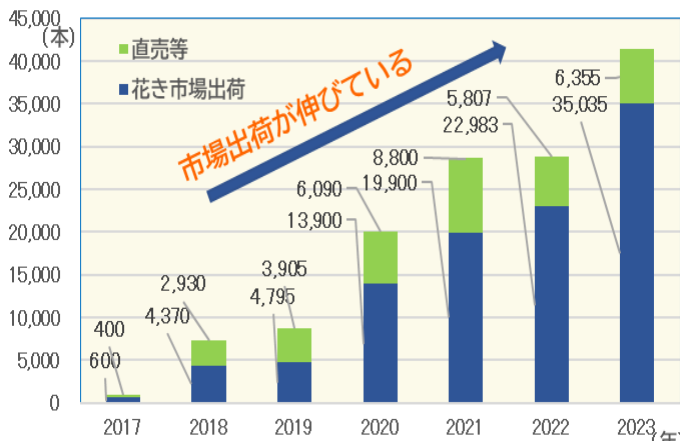
具体的な成果

1 自動かん水設備の導入で夏越しの株率が向上

■ 夏越し後の生存株率が90%に向上

- ・R1年度までは定植1年後の生存株率は約65%程度であった。
- ・水不足による枯死がおもな要因であった。

2 市場出荷本数が年々増加



湖北地域のリンドウ全出荷本数の推移



枯死株

■ 株の生育に応じた栽培管理の徹底により、切り本数は大幅に増加した。

- ・R5年の湖北地域の全出荷本数は、市場出荷約35,000本、直売等約6,400本、計41,400本を達成した。
- ・市場出荷を毎年増やすことができ年々面積を拡大する栽培者も現れている。
- ・小規模ながら、中山間地から継続して市場出荷できる産地が形成された。

普及指導員の活動

令和2年

- 冷涼な気候を好み、獣害に遭いにくいリンドウを中山間地に適した品目として啓発
- 栽培期間（2月～11月）の毎月初めに、情報紙をJAを通じて栽培者に発行
- 指導内容が的確に実践されるよう、個別のは場巡回で技術支援を実施

令和3年～5年

- 加工用途（組み花）の需要動向を実需者と確認して、地域の推進品目に決定
- 新規栽培者に、栽培適地の選定、夏の水管理、適切な液肥施用を指導し、生存株率の向上と生育量の確保を図った。
- 2年目の栽培者には、栽培管理に加え、出荷技術の理解を促し、初収穫・出荷に向けたアドバイスをを行った。
- 3～6年目の栽培者には、適正な茎の仕立て数（1株10本を目安）、適期の施肥、計画的な病虫害防除を助言し、収量と品質の向上を図った。

普及指導員だからできたこと

- ・普及員が市場や実需者、JAや生産者と調整し、**出荷規格を従来規格70cm～加工用45cmまで広く設定できたこと**で出荷率が高まった。
- ・普及員が**頻繁に現場指導を行い**、適期作業や生育に応じた管理が理解され、**自らの意思で実践できるよう**になった。

滋賀県

リンドウ新規栽培者の技術習得と既存栽培者の 収量・品質の向上

活動期間：令和2年度～(継続中)

1. 取組の背景

滋賀県湖北地域では H29 年度（2017 年）からリンドウの栽培を推進し、生産数量の 8 割を関西の市場へ出荷しています。リンドウは盆や彼岸向けの花材としての需要がまだまだ十分にある状況で、現在（R5 年度）の栽培者は 15 名（内 1 名は新規栽培者）、栽培面積は約 40 a となっています。

一方、湖北地域には中山間地の湿田が多く、麦作や大豆作に不向きな圃場が多いことや、多くの品目が野生鳥獣の被害を受けやすかったことから、地域に合った作物の定着と拡大が求められていました。

そこで、普及センターでは、栽培者がリンドウを拡大すべく、株の栽培年数や生育に応じた栽培管理を徹底し、収量・品質を向上させることで需要期に安定して市場出荷できる産地となることを目指して活動をすすめました。



リンドウ収穫作業の様子

2. 活動内容（詳細）

栽培期間（2 月～11 月）中は、毎月の月初めに、「リンドウ情報紙」を JA を通じて栽培者に配布し、その内容が的確に実践されるよう、個別のほ場巡回で技術支援を行いました（右写真）。新規の栽培者には、栽培適地の選定、夏の水管理、適切な液肥施用を助言し、定植後の生存株率の向上を図りました。



6 月の個別ほ場巡回

2 年目の栽培者には、栽培管理に加え、出荷技術の理解を促し、初収穫・出荷に向けた助言を行いました。

3～6 年目栽培者には、適正な茎の仕立て数（1 株 10 本を目安）、適期の施肥、計画的な病虫害防除を助言し、さらなる収量と品質の向上を図りました。

3. 具体的な成果（詳細）

新規栽培者に自動灌水設備の導入をすすめた結果、夏越し後の生存株率は 90%以上に改善されました。また、2 年目の栽培者 2 名のうち 1 名は、早春に

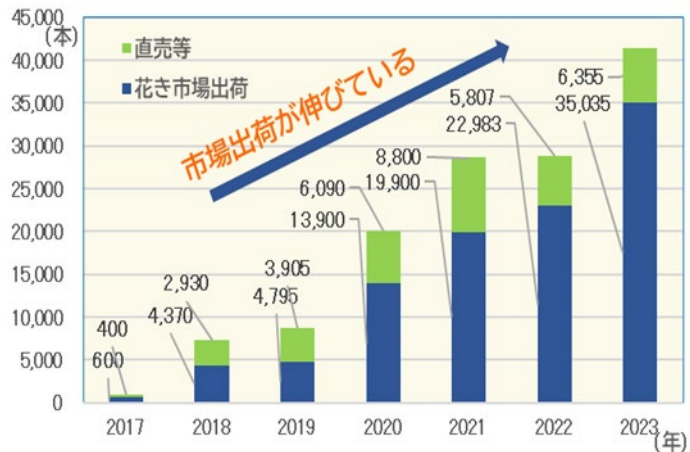
シカに加害されましたが、品種構成を見直していたことで、被害の少なかった品種で約 5,600 本が出荷できました（リスクの分散）。

他の 1 名には、早生以降の品種の導入を作期拡大を目的にすすめ、前年比で約 1,500 本増の出荷ができました。

今年 3 年目で、昨年生が曲がり出荷できなかった 1 名は、支柱やフラワーネットの

設置と誘引、整枝を改善したことで約 1,800 本を出荷できました。また、1 名は生育が旺盛な品種「飛竜」において施肥改善をしたところ、1 株当たり 15 本以上を収穫でき、品質的にも問題ありませんでした。

以上の結果、湖北地域の全出荷本数は、市場出荷約 35,000 本、直売等約 6,400 本、計 41,400 本となり、特に市場出荷を毎年増やすことができました。



湖北地域のリンドウの全出荷本数の推移

<出荷本数が拡大できた要因>

- ① ほ場選定と灌水を促したことで栽培 1 年目の生存株率が高まった。
- ② 株の年数や生育および品種に応じた管理が実践されるようになった。
- ③ 出荷規格を、従来規格の 70cm から組花加工用 45cm と広く設定した。
- ④ 小菊と作業競合が少ない栽培体系が進み始めた。
- ⑤ やや過湿なほ場でも栽培ができることへの理解が進んできた。

4. 農家等からの評価・コメント

昨年より大きく増収しました。翌年は植栽株を増やす予定です。小菊より防除回数が少なく省力的に栽培できました。一方で、猛暑のため早生品種は大丈夫でしたが、8 月以降の開花品種では高温障害が発生し出荷できないものが発生しました。今後は効果的な高温対策があれば情報提供、技術指導をお願いします（栽培者 Y 氏）

5. 普及指導員のコメント

リンドウは、売上額や利益は小菊より少ないが、2 年目以降の定植作業がないため労働時間が少なく、労働時間単価が高く確保できる。獣害も受けにくく湿田でも利益を出せる栽培が可能であり、県内全域を視野に入れた拡大を進めていきたい。

（滋賀県湖北農業農村振興事務所農産普及課 副主幹 北村治滋、滋賀県農業技術振興センター農業革新支援部 主幹 村木慎吾）

6. 現状・今後の展開等

小菊には適さないやや過湿なほ場でも栽培できることや、小菊よりも省力的に栽培できることでメリットを生み出せると考えています。また、市況は、6月～7月でも盆前と同程度の単価で維持されている一方で、高温障害を受けやすいため、暑さや少雨を避ける作型への対応も必要であると考えています。これらのことから、既存の小菊生産と競合させることの無いよう、湖北地域に合う作型として、リンドウ6月～7月出荷 + 小菊7月～10月出荷の作型を中心に推進し、安定して市場へ出荷できる関西の有力な産地となることを目標としていきたいと考えています。



出荷調製に向けた研修会風景

(参考) リンドウ品種と出荷期間のめやす

品種	(開花時期) カタログデータ	6月			7月			8月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
A早生	7月上中旬～7月下旬									
B2号	7月中旬～8月上旬									
C早生	8月上旬～8月中旬									
D2号	8月中下旬～9月上旬									

(参考試算) リンドウと加工用小菊の5年分の収益比較(10a 当たり)

	売上額 (万円)	利益 (万円)	労働時間 (時間)	労働時間単価(円/時間) ()内は対比
リンドウ5年据置き栽培	488	280	1,543	1,815 (146)
8月咲き加工用小菊5作栽培	524	337	2,710	1,244 (100)